

蹴武の型・柳韓（ユ－ハン）

2009年1月15日創始

柳韓創始者 河 明生

一、蹴武型名称

蹴武型名 飛び踵落とし蹴りの型

蹴武型号 柳韓

二、蹴武の型・柳韓の演武線

縦一直線（前進・後進）

「公益の起業家・柳一韓」の微動だにしないまっすぐな生き方をあらわしている。

三、蹴武の型・柳韓の動作数

26動作

柳一韓が柳韓洋行（ユ－ハンヤソウ）を起業した1926年に由来する。

四、蹴武の型・柳韓の技術的特長

特長1 武道の型の歴史上初の飛び踵落とし蹴りの型である。

第4動作 飛び回転踵落とし蹴り内蹴り

第9動作 飛び踵落とし蹴り正面蹴り

第25動作 後方二回転飛び踵落とし蹴り

特長2 直線系の蹴美をあらわす「静麗（セイレイ）蹴り」

静麗蹴りとは、

上段の横蹴りおよび後ろ横蹴り等をスローモーションで行う蹴り技をいう。

第16動作 後ろ横蹴り 静麗蹴り

特長3 円周系の蹴美をあらわす「流麗（リュウレイ）蹴り」

流麗蹴りとは、

上段後ろ回し蹴り等を180度スローモーションで回転して行う蹴り技をいう。

第 18 動作 後ろ回し蹴り 流麗蹴り

特長 4 防御蹴り

第 6 動作 内回し防御蹴り

第 22 動作 180 度回転後方内回し防御蹴り

特長 5 日本跆拳道流息吹 (いぶき)

第 1 動作 半後屈立 + 双龍の構え = 日本跆拳道流息吹

第 5 動作 半後屈立 + 飛龍の構え = 日本跆拳道流息吹

第 26 動作 半後屈立 + 天龍の構え = 日本跆拳道流息吹

特長 6 その他

七龍の構えをすべて網羅

多種多様な蹴り技を網羅。ただし、同じ蹴り技は二度は行わない。

五、号・柳韓の命名由来

蹴武の型・飛び踵落とし蹴りの型 = 柳韓は、
韓国の起業家、柳一韓（ユ一・イルハン、1895-1971）に由来し、
その創始日は、柳一韓の生誕日 1 月 15 日である。

1 , 問題意識

日本跆拳道は、「哲学する武道」を志向している。
その表れが蹴武の型の正式名称とは別に命名している蹴武の型の号である。

日本跆拳道門下生諸氏が蹴武の型を演武する際、
蹴武の型の号に冠した
偉大な先人達の完結した「美しい人生の足跡」を
少しでも思いだしながら、
彼ら偉人達には遠く及ばないにしても、
「自分なりの美しい人生の道しるべ」にして頂きたい、
と蹴武の型創始者・河明生（以下、創始者という）は希望している。

現代は、誰もが自由と平等を謳歌し、「豊かな社会」を希求する結果、
物質的な繁栄をもたらすキーパーソンといえる企業経営者の
国家・社会的役割が高いと言える。
しかし、他方、企業および企業経営者による不正腐敗が蔓延化している結果として
企業や企業経営者に対する不信感が高まっており、

国民から「猜疑の目を向けられる存在」になりつつある。

果たしてこのような状況が、「豊かな社会」と言えるのであろうか？

－豊かなのは物質だけ、精神は歪んで貧しい社会は回避しなければならない。

やはり「真正な豊かな社会」を実現するためにも、国家・社会に有為でかつ健全な企業および企業経営者、とりわけ国家・社会の称賛と尊敬に値する

「公益の企業家・起業家」の存在が不可欠である。

その業績を後世に知らしめることが、経営史家の役割であると創始者は考えている。

創始者が学術研究課題の一つとしている

「健全な経済経営思想・哲学・倫理＝公益の起業家精神・企業家精神」の関心事は、

「人は、ただ単に、金だけのために起業するのか？」

「人は、何故、様々な職業がある中で企業経営者を目指すのか？」

「企業の国家・社会的存在意義は何か？」

「企業は誰のものか？」

「起業・企業経営で成功して獲得した富は、どのように使用すべきなのか？」等につきる。

その模範的回答を与えてくれるのが、柳一韓の一生である、と創始者は考えている。

創始者は、柳一韓が、20世紀の北東アジアの起業家・企業家史の中で、最も禁欲的な「公益の起業家」であり、

「美しい起業家」の一人であり、

その生涯を省みるとき、後世の起業家に対し、

－成功した起業家はどうかあるべきか？

という道しるべを明示した模範的な経営者である、

とみなし、蹴武の型の号に冠した次第である。

2. 「公益の起業家」、柳一韓

では、柳一韓から我々は何を学ぶべきなのか？

1) 柳一韓略歴

1985年、キリスト教が盛んだったピョンヤンで生まれる。

1904年、9歳で朝鮮から単身渡米。

キリスト教に帰依し、プロテスタンティズム的勤勉性を受容。

11歳から新聞配達等で働き苦学と人種差別に堪えながらも向上心を堅持。

高校時代、アメリカンフットボールの特待生となり奨学金を得る。

1919年、米国ミシガン大学（経営学）卒業。

大企業ゼネラルエレクトリック社（GE）の会計士となる（東洋人第1号）。

1922年、米国で食品会社を起業し資本蓄積に成功する。

1926年、日本帝国植民地朝鮮で韓国製薬史上初の製薬会社・柳韓洋行を起業する。
後の延世大学から教授就任の誘いを断り、企業経営一筋。
米・朝を往来、企業経営しながら
南カルフォルニア大学大学院修士課程修了（1940年、経営学修士）。

1946年、初代大韓民国商工会議所会長就任。
解放後の韓国で、国会議員や大学教授等の誘いを断り、企業経営一筋。
歴代政権、とくに腐敗した李承晩（後の韓国初代大統領）とは距離をおき
政経癒着にともなう財閥化の道を選択しなかった。
その結果、李承晩と不仲となり、身の危険を感じて米国へ戻ることもあった。

1948年、スタンフォード大学大学院へ進み国際法を学ぶ。

1954年、韓国で教育事業開始。
高麗工業技術学校、韓国職業学院、柳韓高校・中学等を創立。
同校の学生に限らず、優秀ながら貧しい苦学生への援助を惜しまなかった。

1965年、延世大学から名誉博士号授与。

1969年、経営から潔く引退。
早い時期から経営の近代化に着手し、専門経営者を育てる。
米国生まれの長男（弁護士）がいながら柳韓洋行の経営を委ねなかった。
韓国では当たり前前の同族経営を完全に排除した希有な起業家。

1971年、逝去。
遺言により孫の大学までの奨学金等を除き、
本人所有の全財産を柳韓財団を通じて病院・大学等に寄贈し、
医療および教育への発展に貢献した。
韓国最高の国民勲章ムグンファ章受章

2) 起業で獲得した富を国家社会に還元した柳一韓

柳一韓は、
「企業は社会のもの。経営者は単に引き受けて経営するだけ」
という経営理念を公表し、
「起業・企業経営で得た富は、すべて社会・民衆に還元する」
ことを実践した。

柳一韓は、生前から教育や医学への寄付を惜しまなかった。

獲得した富の大部分を教育と医療活動への支援を目的とする柳韓財団の基金とする。遺言執行後、彼に残されたのは、古い背広数着と使い古した革靴1足だけだった。

1971年公開された柳一韓の短い遺言状（訳および（ ）内は創始者）

「孫のユー・イルリャン（長男の娘7歳）には、大学迄の奨学金として1万ドルを与える。娘のユー・ジェラには柳韓中高校構内にある墓とその周辺の土地5千坪を相続させる。ただし、この土地を柳韓公園として整備することを頼みたい。そして柳韓公園には、絶対、垣を設けてはならない。柳韓学校の学生達が自由に遊べるようにし、若者達の汚れない純粋な精神を墓の中から眺め感じられるようにしてほしい。（私が保有している）柳韓洋行の株式14万9千41株を柳韓財団に寄贈し、韓国社会および教育の信託基金とし、意義のある社会事業と教育事業に使いなさい」

長男には「大学まで出したのだからそれで満足せよ」と何も相続させなかった。なお、長女も、父柳一韓を模範とし、死後、全財産を柳韓財団に寄贈している。

柳一韓のような善行は、北東アジアでは例がない。

－成功した起業家はどうかあるべきか？

という道しるべを明示した模範的な経営者である。

3) 文武両道の柳一韓

経歴で明らかのように、彼は文武両道の起業家であった。

学生時代、アメリカン・フットボールの名選手として奨学金を得ている。

小学校から大学院まで米国で教育を受けた韓国人高学歴者の嚆矢といえる存在。

解放後の韓国の米国との緊密な関係を考慮した場合、専門知識や英語能力等で初代大統領・李承晩にも勝るとも劣らない柳一韓の国会への進出は可能だったし、名門大学となる延世大学から経営学教授職のポストで招聘されたのも当然だった。

しかし、韓国では当時も今もステータスの高い政界・学界へは進まなかった。

だが柳一韓は、奢らず高ぶらなかつた。

富を獲得しながらもスタフォード大学大学院等で学ぶ姿勢は、

彼がたゆまない向上心の持ち主であった証左である。

4) 誠実・清廉だった柳一韓

経歴で明らかのように、彼は不正腐敗を嫌悪した。

大部分の経営者が時の権力者との癒着をのぞみ実行して大規模化を果たす中、柳一韓は、命の危険を省みず、それを拒絶している。

政経癒着にともなう財閥化の道を選択しなかつた誠実・清廉な起業家であった。

以上、創始者は、柳一韓こそは、

国家・社会の称賛と尊敬に値する「公益の起業家」であるとみなし、
後世の模範とすべく蹴武の型・飛び踵落とし蹴りの型の号を柳韓とした。